

タキタロウまつり

5月31日（日）、第30回タキタロウまつりが来場者数約5千名という大変な賑わいの中、鶴岡市大鳥のタキタロウ公園にて開催され、今回初めて庄内森林管理署及び当センターが協同して参加しました。

当センターのテントブースでは庄内署は大鳥池等の空中写真の立体視体験、センターは朝日山地の写真やセンターの取組を紹介したパネル展示、松ぼっくり釣り、木の実や枝など自然の素材を使った木工クラフト制作を行いました。また、朝日山地のマナーガイドや朝日自然塾のパンフレット等を配布しました。



カラフルな松ぼっくり釣り

テント前で行った松ぼっくり釣りは老若男女問わず大人気で、用意していた松ぼっくりや釣り竿が途中で足りなくなるほどでした。うまくつなげて釣り上げる（3個以上で1個プレゼント）のが意外に難しく、長時間粘り強く挑戦する人の姿も見られました。

木工コーナーでは子ども達を中心にそれぞれが思いおもいの作品を夢中になって作っていました。

展示コーナーでは朝日の雄大な四季の写真や紹介パネルなどに思わず足を止めて見入る人、スタッフに話を聞く人等の姿が見られました。終了時刻の午後3時いっばいまで盛況のうちに無事終了、地域行事に貢献するとともに地元の方々とのふれあいができ、とても有意義なイベントでした。



木工品制作コーナー
(地元ケーブルテレビでも放映)



木製のケーキづくり

朝日連峰山開き

6月21日（日）朝日連峰開山に伴う安全祈願祭が鳥原小屋（山形県大江町）にて行われ、行政機関・山岳会・避難小屋等の団体、一般登山者等が集い、今シーズンの安全を祈願しました。当日は、ぶな峠登山口（大江町）から、センター職員5名で登山を開始しました。事前にコース下見を行っていたので、足取りも軽く、約3時間で鳥原



鳥原小屋にて安全祈願

小屋へ到着。安全を祈願した後、帰路に着きましたが、天候が崩れ始め、途中降雨に打たれながらの山行となりました。当初、鳥原山（標高：1,430m）へ移動して昼食をとる予定でしたが、帰路途中の木陰で早々に昼食を済ませ、足早に下山しました。

この朝日連峰安全祈願祭が終わると、いよいよ本格的な山シーズンの到来です。

今年度こそ無事故・無災害を目指し、職員一同気を引き締めて業務に従事したいと思います。



鳥原小屋に向けて登坂

月山開山祭

7月1日（火）月山開山祭へ参加しました。当日は、台風並みの強風と横殴り（時折正面からの暴風）の冷たい雨の中、センター職員4名で約3時間で月山山頂（標高：1,984m）へ到着。安全を祈願した後、環境省羽黒自然保護官とともに約2時間で下山しました。

とにかく寒く、せっかく弥陀ヶ原にきれいな花々が咲き誇っていたにも係わらず、撮影できる天候ではなかったことが悔やまれますが、悪天候の中、同僚同士互いに声を掛け合い、無事下山できたことに、とにかく安心しました。



帰路の弥陀ヶ原にて



第 17 号
平成27年 7月発行

朝日庄内森林生態系保全センター

〒997-0404

山形県鶴岡市下名川字落合 3

TEL : 0235-58-1730

FAX : 0235-58-1731

E-mail: t_syounai_f@rinya.maff.go.jp

Home Page: http://www.rinya.maff.go.jp/to

hoku/syo/asahi/

朝日山地森林生態系保護地域管理委員会

6月3日（水）、山形市の山形県自治会館において、朝日山地森林生態系保護地域管理委員会が開催されました。

議事に先立ち、菊地座長（山形大学准教授）から自然界で起こることも「点」であるがそれぞれの「点」は線で繋がっている。私たちの活動も線として繋がっていきましょうと挨拶がありました。

議事に入り審議事項では、ボランティア巡視員の巡視活動やモニタリング調査結果及び今年度の計画について説明し、近年、巡視員の合同パトロールへの参加が減少しており、対応策を検討すること。モニタリング調査については、科学的な評価に堪えうる調査による比較と取りまとめ手法等の検討などをご指摘いただきました。

続いて報告事項では、スノーモービルの乗り入れ関係、マツノクロホシハバチの対応、森林生態系保護地域内の人工林から天然林への誘導、朝日山地の写真募集、朝日自然塾プログラム、平成26年度のニホンジカ影響調査・簡易チェックシート調査などについて説明し意見交換を行いました。

その中で、人工林から天然林への誘導については森林遷移を十分に注視しつつ、地形のあり方、植生など森林の特性を踏まえ取り組むこと。ニホンジカについては、東北局管内全体での取組の継続と関東局からも県をまたいでの対策が必要である旨の報告を受け、研究機関、県、市町村との連携の重要性等が話し合われ、引き続き地域の皆様と連携した保全管理の取り組みを全体で確認しました。



管理委員会

朝日山地森林生態系保護地域巡視員会議（春季）

夏山シーズン前の6月20日（土）、鶴岡市の朝日中央コミュニティーセンター（すまいる）で巡視員会議を開催しました。新たに登録された3名の巡視員への委嘱状の交付の後、今年度の巡視活動方針等について意見交換を行い巡視員との合同パトロールの取組強化なども含め、引き続き保全管理へのご協力をお願いしました。

また、H26年度朝日山地フォトコンテストにおいて最優秀賞の方を山形森林管理署長に代わってセンター所長が表彰。今年度も巡視員等



井上さんからの講習

の皆さんから「朝日山地の写真」を秋まで募集。応募作品は各イベントやHPなどでPR等に活用します。午後からは、小国の自然を守る会の井上邦彦さんから「地域の特性に合った救急法と登山道のメンテナンス」について、自身の経験談に基づく分かりやすい講習を受け、今後の巡視活動に活かして行くこととしました。



フォトコンテスト最優秀賞者
【庄司さん】

みどいの保育園

〇クロマツきっこり隊

6月10日（水）、酒田市宮海国有林1131林班で枝打ち作業（愛称：クロマツきっこり隊）を実施しました。

この「クロマツきっこり隊」とは、クロマツの保育をとおして、自然環境を学ぶ取り組みとしてネーミングし、園長先生を隊長に、園児が隊員となり、西荒瀬保育園の正面に存する国有林の一部に、平成17年に植栽したクロマツの枝打ち作業をしました。



親子でクロマツ枝落とし

最初に太い枝を親がノコギリで枝打ちし、その後、親子で枝打ちをする作業で、植栽後、今回が初めての枝打ち作業です。

枝打ち作業をとおして、親子体験型森林環境教育を推進し、クロマツ林の大切さを教える絶好の機会です。

なお、「クロマツきっこり隊」の愛称は「クロマツきこり隊」に親しみを込めて西荒瀬保育園が命名しました。

〇クロマツ探検隊Ⅱ

7月9日（木）、万里の松原松陵地区と酒田北港緑地展望台で「クロマツ探検Ⅱ」を実施しました。



三沢会長からクロマツの説明

万里の松原松陵地区では、クロマツ林の保全活動を行っている、地元森林ボランティア団体「万里の松原に親しむ会」の三沢会長の案内で、ここにあるクロマツは全て手で植えたものなど、万里の松原の歴史や働きについて、わかりやすく説明して頂いた後、万里の松原の中を探検しました。

次に、酒田北港緑地展望台に向かいました。この展望台は地上18mの高さにあり、酒田の町・海・林をぐるっと見渡すことができますが、庄内海岸林を眺めた園児たちは、クロマツ林に隠れて、保育園や酒田の町並みが見えないと感想を話してくれました。このように保育園や町並みが見えないくらいクロマツ林がいっぱいあるので、海からの強い風や、飛んでくる砂（飛砂）などからみんなを守ってくれていることを、職員が説明しました。

緑の回廊 土湯の森自然再生実施協議会



最上川スキー場跡地の植生確認

6月26日（金）、平成19年度から第9回目となる協議会を開催しました。

座長の山形大学農学部小山教授をはじめ、地元住民、関係団体、行政機関からの委員6名と、事務局10名で最上川スキー場跡地における平成26年度事業報告及び平成27年度事業計画等について協議しました。

会議では、植生モニタリング調査の結果を踏まえた意見や、今後の自然再生の方法、また、この最上川スキー場跡地の将来像を、どのようにすべきか等の活発な意見交換が行われ、自然再生事業を進めつつ、地元の小学生等を対象とした

森林環境教育にも推進力をつけていく方向性が出されました。特に、今年度は、ブナの実が豊作のきざしがあることから、この機会を逃すことのないよう、ブナの種をセンターで採種し、森林環境教育の素材として活用しつつ、今後の自然再生事業に活かすため、実生苗のストック等を検討し、自然再生実施年次計画にも反映できる事業（植付）を企画する等の委員からの意見を踏まえ、第2次計画も残すところ2年度間（平成28年度終期）となりましたが、できることを着実に実践していきたいと思えます。



第9回自然再生実施協議会

朝日自然塾3 フロが教えるイワナ釣り

7月11日（土）、晴天の中、山形市、天童市、白鷹町、鶴岡市内の小学生親子23名が参加して、自然豊かな伝説のタキタロウの下流、鶴岡市大鳥で開催しました。



見事難関のイワナを釣り上げました！

現地の東大鳥川で行われた開会式では、当センターの加藤所長が「イワナが生息するには森林環境がとても大切です。ここは『朝日山地森林生態系保護地域』に設定されていて、私たちは地域の皆さんと一緒に保全管理の取組を行っています。今日は、この豊かな自然と、釣りを大いに満喫して、楽しい一日にして下さい。」とあいさつがあり、その後、三つの班に分かれ、釣りを開始。前半は子供達、後半は親子で釣りを楽しみました。

しばらく釣れない状態が続きましたが、本日初めてとなるイワナをお子さんが釣り上げると周りの大人達からも大きな歓声が上がりました。

あっという間に釣りの予定時間が過ぎてしまい、釣れた親子も釣れなかった親子も、名残惜しそうに釣り場を後にし、イベントバス等でタキタロウ館へ移動。

タキタロウ館では、加藤所長が自ら焼いて準備したイワナの塩焼きが、参加者全員に振る舞われ、イワナに舌鼓を打ちながらの楽しそうな昼食風景があらこちらに広がりました。

午後は、①イワナのさばき方体験。②プロが教えるイワナに関するとおきの話。③毛針のつくり方体験。の三つの教室に分かれ、それぞれ講師から説明や手ほどきを受け、どの親子からも真剣に学んでいる様子が見られました。

最後は皆で記念撮影。再会を約束し、無事終了しました。



調理用イワナを自分でさばきます



たくさんの方に集まっていただきました

朝日自然塾4 伝説のタキタロウが棲む大鳥池に行ってみよう



沢を何度も渡りました

7月16日（木）、鶴岡市立あさひ小学校5年生児童25名、先生5名、自然塾のスタッフ10名の総勢40名でタキタロウが棲む大鳥池を目指しました。

台風11号の影響もあり、小雨がちらつくあいにくの天候でしたが、児童たちは元気一杯。岩場やぬかるみ、川の中、足場の悪い幾つもの難所を、励ましながら皆で乗り越えました。最後の急斜面「七曲り」を息を切らしながら登り終えると、そこには伝説のタキタロウが棲む大鳥池が。初めて目にする

その景色の雄大さに驚きの声や歓声があがりました。

森林の働きやそこに棲む動物、珍しい草花、そして山でのルール等、普段教室では聞けない話をたくさん聞きながら、全員が元気に登山を満喫しました。



ついにたどり着いた大鳥池（標高963m）